

栗田公民館は7月23日、納涼夏祭りを日吉大神社境内で開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため参加者にはマスク着用をお願いするとともに、夜店や屋台の開店は今年も見送り昨年同様フラダンスと花火を楽しむ会として実施しました。(左ページに写真グラフィック)



家族連れなどにぎわった子供花火大会

納涼夏祭りに多くの住民 コロナ対策に留意し開催

た。

第一部のフラダンスはレイアロハの皆さんが熱演しました。また、第二部の育成会主催の子供花火大会は、家族と一緒に子供たちに加え、友達同士で参加した小・中学生も目立ち、境内いっぱい歓声が広がりました。

第三部の花火大会では、打ち上げ花火や仕掛け花火の「ナイアガラ」などを堪能しまし

第一部に出演したレイアロハ代表の金井孝子さんは「本来ならルンビニ幼稚園の園児と共演する予定でしたが、コロナウイルス感染の急拡大でできなくなり寂しかった」と前置きし、「ダンス曲『涙そうそう』はこの5月から取り組んできました。ただ、月2回の練習では心許なく、先生も心配して下さって、7月に入ってから毎週1回、計3回練習しました。表情を柔らかくしようとする手足の動きがおそろかになるなど苦労も。今後もイベントなどで皆さんに見ていただけたら」と語りました。

栗田の風景③

栗田のお宮

子供たちの楽園

水内総社日吉大神社。水内郡(みのちごおり)とは律令時代からの呼称で、現長野市の犀川以北と、飯綱町、信濃町の全域および中野市・飯山市・栄村の一部を合わせた広大な地域を指し、総社とは地域内の祭神を合祀(ごうし)した神社を意味します。

正式名を聞くと厳めしいのですが、地域ではもっぱら「栗田のお宮」として親しまれてきました。

今では一帯が整備され整然としています

の身の丈より高い草が生い茂り、ヒキガエルなども生息していました。

当時の栗田のお宮は、とりわけ子供たちにとってはアドベンチャーワールドの観があり、学校の放課後や休日には多くの子供たちが集まる場所でした。三角ベイスをしたり、大木の中を貫く「うろ」を伝って木の上まで登ったり、本殿の石垣をどこまで登れるか競争をしたりしたものです。

境内の木々がうっそうとしており、境内の西側も昭和40年代くらいまでは湿地帯で、子供



昭和37年ごろ。境内には大木が数多くありました